

2013年3月ワークキャンプ@ビシュナプール下見活動報告書



9月ワークキャンプのための下見を行う。

教育支援PJ始動のための調査を行う。

ソーシャルビジネス“インドの雑貨屋さん oaks”の商品のサンプル作成、発注を行う。

【渡航日程とメンバー】

2013/03/03-03/24

梶田恵理子・早稲田大学4年

安田亜希・早稲田大学4年

加藤優人・武蔵野大学2年

山田詩織・早稲田大学2年

土屋菜月・早稲田大学2年

2013/03/05-03/12

八鍬開・早稲田大学3年

【インド人キャンパー】

カーティック

ソボン



～キャンプを応援しにきてくれたカーティックとソボン。今回の下見が初めてのコロニーだったソボンだが、次第に打ち解け、コロニー内の小学校の代行の先生として学校で勉強を教えたりと活躍してくれました！～

【渡航の目的】

◆ワークキャンプ



- ・次回ワークキャンプを含めた今後のワークキャンプのワークニーズ調査を行う。
- ・前回キャンプのワークPJの事後調査を行う。

◆教育PJ

- ・教育PJを始動するために、コロニーの子供たちを対象とした聞き取り調査を行う。

◆ソーシャルビジネスプロジェクト “インドの雑貨屋さん oaks”

今後販売予定の物品のサンプルを作成し、発注する。

【成果】

◆ワークキャンプ

- ・ワークニーズを調査するにあたって、カウンターパートナーのオルン氏の協力のもと、村人ミーティングを行った。

そこで出てきたのは、現在 10 代の子供が成長し家族を持ったとき、今のコロニーには満足な数の家屋がないため、何世帯も住めるようなアパートをコロニーに建てて欲しいということであった。しかしながら、私たちのワークキャンプのやり方として目指すものは、彼らのニーズをただ素直に叶えていくのではなく、彼らにも自主性を持ってもらい、彼らとともに何かを作ったり、計画したりしていくというものだ。そのため、話し合いの場では、彼らの要望を叶えることは約束せず、彼らが将来家族・一族で住めるようなアパートを建てるための貯金をしていくことを私たちからの要望として提案した。貯金に関しては、カウンターパートナーであるオルン氏が各家族の口座を開設するお手伝いをしてくれることを約束してくれた。

- ・次回ワークキャンプでは、ナマステがこれまでの二度のワークキャンプで修理してきた家屋 50 軒の屋根の修理と家屋や公共場所の舗装を行うこととなった。

◆教育 PJ

- ・前回キャンプで調査した各家庭データを下に全学生を対象とした調査を当初行う予定であったが、学費が無料であるコロニー内の小学校に通う子供たちは調査対象からはずすことにし、コロニー外の公立中学校に通う学生と、現在はドロップアウトし働いている若年村人を対象に調査を行うこととした。
- ・また、コロニーの学生が通う公立中学の校長先生に学費や差別についてお話を伺った。
- ・調査の結果をもとに、支援をするのであれば教育支援のあり方や支援方法などを教育支援の必要性を改めて考えるという段階から 5 月末に行う OBOG 会で話し合いを行うこととなった。

【今回の渡航で感じたこと】

2012 年 9 月のワークキャンプで、私たちキャンパーが村人にとって対等に付き合ってくれる初めての部外者であり、そんな関係でいてくれることがとてもうれしい。との言葉を村人からもらったが、それでも未だ、年に二回来訪する「支援者」という立場で私たちを認識しているということだ。傍から見れば、「支援者」であることに変わりはないのかもしれない。しかし、私たちとしては村人と、「一緒にコロニーの将来を考える仲間」としての認識を互いに持ち、活動していきたいと考えている。

そこで、今後のワークキャンプ、特に物質的支援となるワーク PJ では例えば、彼らにもコロニーの移住環境改善のための作業員・管理者として PJ に参加してもらったり、教育 PJ では、支援する成果を成績で出してもらったりなど、PJ を一緒に動かしていく姿勢、工夫

が必要であると考え。

◆ソーシャルビジネス “インドの雑貨屋さん oaks”

- ・安田がキャンプ下見を途中抜けする形で、プロジェクトを進めた。
- ・カウンターパートナーのリタさんと共に、新しい商品のサンプル作成と商品の発注を行った。
- ・次回のキャンプで実現できるかどうかは模索中であるが、キャンプ時期に合わせる形で、キャンプ開催地のビシュナプールコロニーでコロニー在住の女性を対象としたアクセサリ商品作成のワークショップを開催することを現在検討している。